

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

令和 7 年度
一般選抜 小論文試験問題
〔 150 点 〕
〔 60 分 〕

千葉県立保健医療大学 健康科学部

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけない。
2. 問題冊子は、表紙を除き 5 頁である。
3. 問題冊子及び解答用紙の印刷が不鮮明などの場合には、手を挙げて監督員に知らせること。
4. 解答は、必ず黒の鉛筆（シャープペンシルも可）で解答用紙に記入すること。
5. 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること。
6. 不正行為に対しては厳正に対処する。

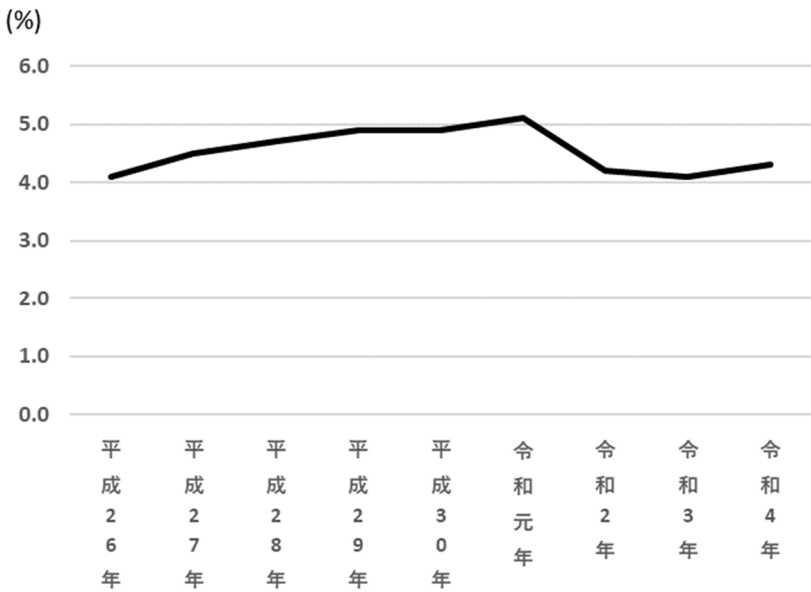
- 問題** 次頁からの自動体外式除細動器（AED）に関する課題文および図表をもとに、以下の問いに答えなさい。ただし、解答文中では、自動体外式除細動器は AED と表記すること。
- 問 1** 課題文に「実際に電気ショックが行われるケースはわずかにとどまっている」ことの要因に「患者の元へ速やかに AED が届かないことだ」と書かれている。AED を実際に使用する状況の中で、「いかに早く持って来られるかが勝負だ」の文章に続く空欄（①）（②）に該当する対策を答えなさい。
- 問 2** 図 1 において、令和 2 年に AED 使用率が下降しその後上昇傾向とならない理由について、どのようなことが考えられるか。あなたの考えを 50 字以内で述べなさい。
- 問 3** 表 1 において、一般市民により AED による電気ショックが行われたか否かで 1 か月後の生存率と 1 か月後の社会復帰率がどのように異なるのか、令和 4 年のデータを用いてそれぞれ 70 字以内で説明しなさい。また、これらの結果から解釈できることを 50 字以内で述べなさい。
- 問 4** 課題文、図 1～4、表 1 を踏まえて、AED 使用が少ない理由を 2 つ挙げ、それぞれを解決するための改善策について、あなたの考えを 451 字以上 500 字以内で述べなさい。ただし、原稿用紙の使い方に従うこと。

課題文

著作権の関係上、省略します。

出典：寺町六花（令和6（2024）年5月26日） AED 市民使用解禁から20年なのに電気ショックは4% なぜ低調？ 毎日新聞電子版 <https://mainichi.jp/articles/20240524/k00/00m/040/173000c>（一部改変）

図1 一般市民が目撃した心原性心肺停止傷病者のうち、一般市民により除細動が実施された傷病者の割合（AED 使用率）の推移



出典：「総務省消防庁 令和5年版 救急・救助の現況」を基に作図

表1 一般市民が目撃した心原性心肺停止傷病者のうち、一般市民による除細動実施の有無別の1か月後の生存率と社会復帰率

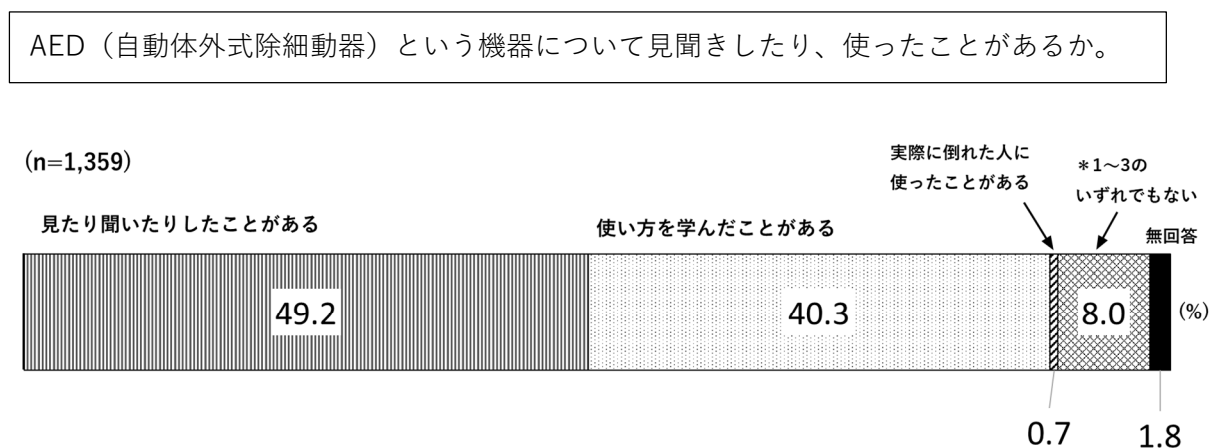
区分	年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
一般市民が心原性心肺機能停止を目撃した傷病者		25,255	24,496	25,569	25,538	25,756	25,560	25,790	26,500	28,834
うち、一般市民により除細動が実施された傷病者		1,030	1,103	1,204	1,260	1,254	1,311	1,092	1,096	1,229
1か月後、生存者		519	596	642	674	701	703	581	540	618
生存率		50.4%	54.0%	53.3%	53.5%	55.9%	53.6%	53.2%	49.3%	50.3%
1か月後、社会復帰者 ^{注)}		446	508	547	576	605	603	479	440	523
社会復帰率		43.3%	46.1%	45.4%	45.7%	48.2%	46.0%	43.9%	40.1%	42.6%
うち、一般市民による除細動が実施されなかった（適応でなかった）傷病者		24,225	23,393	24,365	24,278	24,502	24,249	24,698	25,404	27,605
1か月後、生存者		2,563	2,590	2,758	2,770	2,883	2,856	2,574	2,404	2,353
生存率		10.6%	11.1%	11.3%	11.4%	11.8%	11.8%	10.4%	9.5%	8.5%
1か月後、社会復帰者 ^{注)}		1,526	1,595	1,679	1,656	1,750	1,688	1,463	1,398	1,371
社会復帰率		6.3%	6.8%	6.9%	6.8%	7.1%	7.0%	5.9%	5.5%	5.0%

注) 社会復帰者とは、脳機能および全身機能が機能良好もしくは中等度障害を示しており、社会復帰できる状態であった者をさす。

出典：総務省消防庁 令和5年版 救急・救助の現況（一部抜粋、一部改変）

図2から図4は、千葉県在住の満18歳以上の男女3,000人を対象（有効回答数は1,359人）とした県政に関する世論調査の結果の一部抜粋である。

図2 AEDの認知度・利用経験



注)「1～3のいずれでもない」における、1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指す。

図3 AEDを使用できるか

見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、その人にAEDを使用することができると思うか。

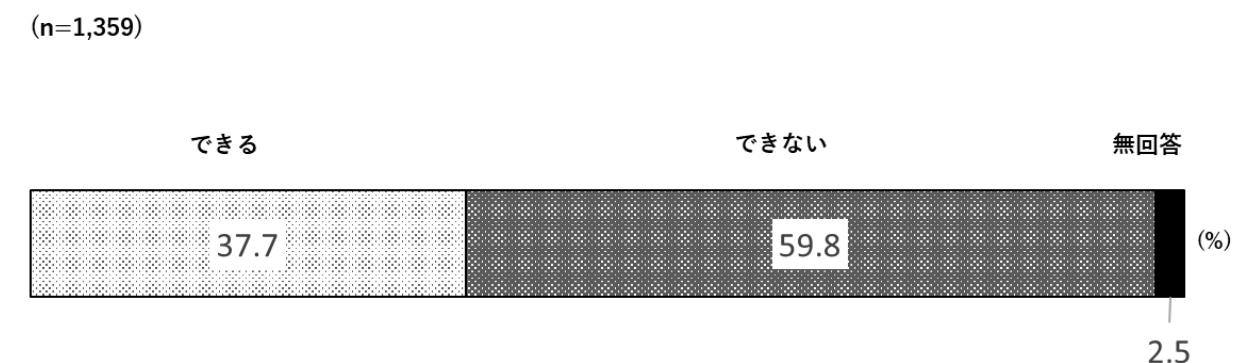


図4 AED を使用できないと思う理由（複数回答：いくつでも）

見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その人に AED を使用することが「できない」と回答した
813 人を対象にその理由を聞いた

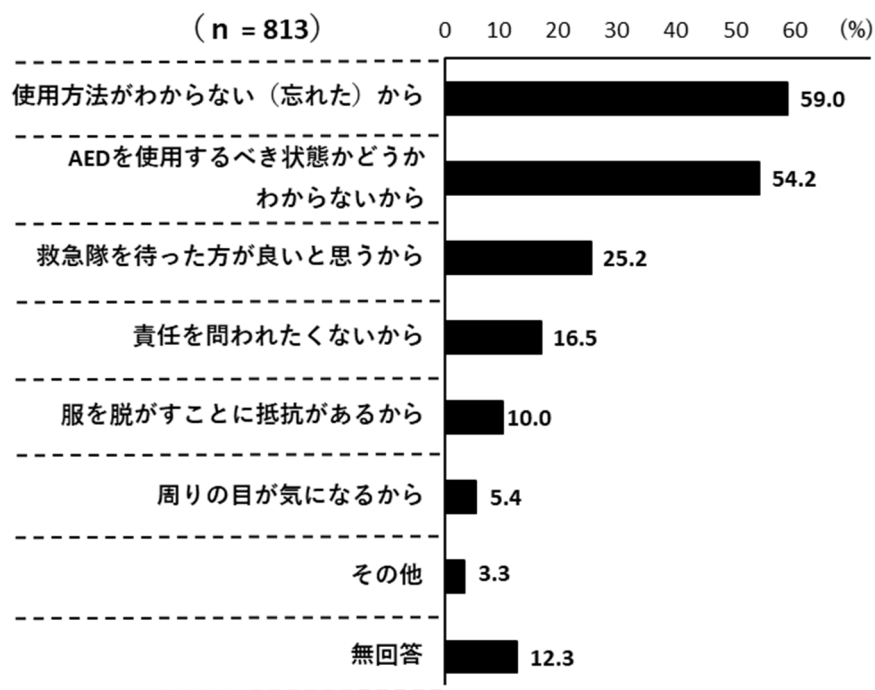


図2～図4 出典：千葉県 第59回県政に関する世論調査の結果について

令和2年6月2日 （一部抜粋、一部改変）